

2000 年 9 月 25 日定例社長記者会見＜要旨＞

「ジャイアンツV」

質問：社長の表情も非常ににこやかなんですけど、長嶋監督が今、ご報告に来ていらしたということで・・・

氏家社長：

どういう戦いを日本シリーズでやろうとしているかとか、来年度の補強をどうするかとかね、監督の考えてることを聞いた。その話の中身が出来ないんだよな、長嶋君の手の内だろ？彼は明解に言ってたよ。シリーズの戦い方とか。やっぱり、考えてるんだよ。監督は連勝というか、連覇を考えている。今の戦力ならできると思う、はっきり言って。ただね、一番こわいのは怪我人なんだよな。

「CS110度事業」について

質問：110度CSの委託事業者の申請も始まりましたが、日本テレビとしてどのように、申請されるかということと、プラットフォームとしてどのようにやっていかれるかということ。

氏家社長：

いずれも、やっているし結論も近いはずなんですけど、詳しくは久保メディア戦略局長から。

質問：プラットフォームの方からお願いします。

久保局長：

現時点での正しいことを、私の口からお話しできる範囲内で言うと、110度CSのプラットフォーム事業に関しては、引き続き話し合いをしているということになります。ただ、前回プラットフォーム事業の話をしたのは、確か5月の連休明け。1部複数の新聞にですね、WOWOWさんと日本テレビがうんぬんという話が出たときに、私も同席して夏までには企画会社立ち上げるメドを話したんですけど、今日現在それについてのお話しが出来ないということは、企画会社の構想は現時点ではまだまとまっていないということになります。

しかし、相手があることなんで非常に難しいんですが、名前を出せば、みなさん良くご存知の企業も含めて、話し合いは続いております。

質問：委託放送事業者の件は日本テレビとして、免許申請はされる意向はあると思うんですけど。

久保局長：

委託放送事業者の認定申請をするということを、日本テレビグループとして日本テレビが決めたことは事実です。だから、申請はいたします。

ただし、申請のスタイルは日本テレビ単独で申請するのか。私共としては、単体で申請することと、別会社を作って申請することと、申請の受け付けは始まっていますけれど、2本立てで準備をすすめております。これは10月19日締め切りですから、もう早々と準備をされて、申請された企業さん、グループさんもあるでしょうが、私共はまだ書類は郵政省に提出してません。今なお2本立てで、どういうふうにやっていくか考えております。といいますのも、40から50社くらい名乗りをあげているとみられ、当然 厳しい競争になります。どういうパターンで申請をすれば、確実に認定を得ることができるかを考えてという事になります。

質問：今回の110度CSで、どういうプラットフォームが出来そうですか？

氏家社長：

なんて言うのかな、全部自分で作って、展開していくやりかた、ディレクTVがやったみたいなやり方があるんだけど、今アップリンクの会社だって、日本の中で5つ～6つある。課金なんかについても、一番、課金の技術持ってるのは、NTTグループだよ。そういうのを、組み合わせてやっていけば、プラットフォーム事業に金がかかったやり方ではなく格安のやり方がありうるんだろうというのが、もはや定説になっている。どういう組み合わせでやろうかってことを我々は考えてるということなんです。

「B - B A T」について

質問：続きまして、著作権会社「B - B A T」設立の目的というか、今後の展開について。

氏家社長：

これも久保局長から。

久保局長：

たしか7月でしたけど、雨の日にお集まりいただいて記者会見の席で、構想を発表いたしました通りに、株式会社B - B A T企画という会社を、9月13日付けで設立しました。この18日に登記が確認されましたので、N T Tと協議の上、20日にみなさんのところに資料配布でお知らせした次第です。

資本金は4億8000万円で、最初もうすこし小さい資本金をと考えていたんですがそのまま作りまして、日本テレビが51%、N T Tグループ2社が49%ですが、もう発注して設備も買いました。10月からビジネス検証を初めます。現在、およそ111社でしょうか、100社以上の方から「ビジネス検証には参加します」というお返事をいただいています。

10月から、そのビジネス検証をしていく過程で、これならおもしろいから企画会社の段階から入りたいというのであれば、4億8000万の資本金は増資しないままご希望のみなさんに、我々が持っている分、N T Tさんが持っている分、それぞれ近い関係にあるところから、株分けをするという考え方です。来年の春から夏にかけて、正式な事業会社を立ち上げる。その過程では、また新たに出資者を募っていく。という風になると思います。当然、日本テレビ、N T Tグループの出資比率は下がっていくという風に考えています。問題は実際にどういうコンテンツが流れるか、当然日本テレビ自身も、何か面白いものを流して、お見せしなければいけない。日本テレビ社内でも、関係部局にお話しをしなければいけない。また、している段階です。

氏家社長：

これはね、今N T Tグループといろいろやってるけど、みなさんも申し上げているとおり、今後のビジネス展開というのはね、考え出した人が創業者利益をたっぷり取るというやり方はもうもたない。だから、僕は展開するときは、均等の利益を得るような形にしない限り、絶対に今後の企業というのは伸びませんよと言っているし、またこれを確信してますからね。その方向でこれも展開させようと思ってます。

以上